

第三回シンポジウム開催に際して

中国第一歴史档案館館長 徐 藝 圃

尊敬する仲里長和教育委員会教育長

尊敬する宮城悦二郎公文書館館長

尊敬する玉木敬図書館館長

ご出席の皆さん

本日ここにおいて、「第三回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム」の開催にあたり、まず私は中国国家档案局局長王剛、中国第一歴史档案館職員一同を代表いたしましたして、シンポジウムの開催を心よりおよろこび申しあげます。

さて、一九九三年北京での第二回シンポジウムから今日までの間に、私たちにとって大変よろこばしいことがありました。と申しますのは日本においても、中国においてもいま中国・琉球の交渉史に関する研究はますます広がりを見せ、そのレベルも日に日に高まってきております。その成果は素晴らしいものがあります。

例えば中国第一歴史档案館は財団法人おきぎんふるさと振興基金の資金協力を得まして、一九九三年の第二回シ

ンボジウム前に中華書局より『清代中琉関係檔案選編』を出版いたしました。また、その後、一年足らずの間に一九九四年夏『清代中琉関係檔案統編』を出版いたしました。

『選編』と『統編』にはあわせて清代の中琉関係檔案が一一五二件収録されており、うち『選編』には八六三件、『統編』には二八九件が入っています。これは近年中国第一歴史檔案館と沖縄県が、文化交流を進める上での一つの大きな成果であり、極めて有意義なことでもあります。またこれは中琉友好協力関係の証でもあります。

一九九四年十一月下旬、福州で第五回中琉歴史関係學術會議が開かれました。その會議に参加された方々が、本日の会場にもたくさんみえております。このことは中国と琉球の歴史関係に関する研究が、今、国際社会においても多くの學術研究会から注目され、すでにたくさんの方々の學者・専門家の関心を集めていることを意味しています。

また、研究の分野においても、当初の進貢、冊封、貿易、官生入学、海難の救援から次第に現在の社会風俗、音楽、舞踊、冠婚葬祭まで幅広く研究が行われております。ある學者は自ら現地に出かけて調査を行い、そしてその成果を論文にまとめました。このようにして中琉関係に関する研究は次第に多様化し、いろいろな角度、いろいろなレベルから研究が進められております。これは近年の中琉関係に関する研究において、大変よろこばしいことだと思えます。

現在、中国ではこの三、四年の間に中琉関係を研究するグループが幾つか出来ました。北京では中国第一歴史檔案館は檔案史料に恵まれていることから、当初の個人レベルの研究から今日の八名による研究グループにまで成長してきました。福州では福建師範大学を中心とした一つの實力ある研究グループがあります。この研究グループはかつて福州が琉球と海上貿易を行った交流関係、歴史に残された文物遺跡などを活用して、多くの詳細な史料と、

独特な論考を発表しています。とくに、第二回のシンポジウム以降、中国第一歴史档案館と福建師範大学は協力関係を締結したことから、中国・琉球の歴史関係に関する研究がますます促進されるものと確信いたしております。

また、みなさんよくご存知の通り、台湾においても一つのレベルの高い研究グループがあります。近年、台湾と大陸の間で学者の交流がさかに行われるようになりました。私たちをとりまく環境は次第によくなってきました。

昨年、福州会議の席上で台湾サイドからは第六回の中琉歴史関係学術会議は中国第一歴史档案館が主催したらどうかとのお話がありました。私たちとしては全力を尽くして取り組んでいきたい所存であります。

このたび、大田昌秀沖縄県知事のご提唱のもとで、歴代県教育長のご支持を得ながら中国第一歴史档案館と沖縄県立図書館の協力関係は、順調に進んできております。今度、沖縄県公文書館の開館によりもう一つの新しいパートナーができました。また歴代宝案編集室も公文書館に移転しましたので、今後の協力作業はよりいっそう便利になつてくることを思うと、心強く思います。

このシンポジウムでは、中国第一歴史档案館サイドからは四本の論文発表が予定されています。呉元豊氏と劉蘭青女士は、はじめての参加です。呉元豊氏は档案館満文部の副主任で、彼の論文は「清朝初期における琉球国王尚質の冊封について」というものですが、使用している史料は主として档案館にある満文档案によるものです。

満文档案の数は档案館档案全部の十分の一を占めております。今後満文档案についての研究は中琉関係を研究するうえで、必要となつてくると思います。新しい史料の発見も期待出来ると思います。

ついでに申しあげますが、みなさんがよくご存じのわが档案館の朱淑媛女士は、今回参加することはできません

でしたが、彼女も論文を準備してきました。またシンポジウムに参加している王光越氏は全国明清档案資料目錄センターの副主任で、彼も論文を提出しましたが、覚書の規定により、また時間の制限もあつて次回の発表に譲ることにいたしました。

学者、専門家のみなさん、今回王明哲をはじめとする中国代表团一行は大田知事のご招待で公文書館の開館式典に出席するとともに、第三回琉球・中国交渉史に関するシンポジウムに参加する事が出来ました。この間、今後の協力のありかたについても話が交わされる予定です。この度、各方面、また大勢の方々からあたたかい歓迎を賜り、行き届いたお世話をして頂きました。これに対して、心から感謝の意を申し上げます。ありがとうございます。

今年十月六日から十日までの間、中国第一歴史档案馆が開館七十周年を迎えて、記念行事が企画されています。またそれと並行して第二回明清档案と歴史研究国際学術シンポジウムの開催も予定しております。

みなさまにはすでに招待状を出しております。ぜひご出席下さいますようお願いいたします。本日この場を借りて中国国家档案局と組織委員会を代表してもう一度御招待申し上げたいと思います。北京においでください。

最後に第三回琉球・中国交渉史に関するシンポジウムの成功をお祈りして、私の挨拶といたします。